



2023年3月15日

各 位

会社名 株式会社ビーアンドピー
住 所 大阪市西区江戸堀二丁目6番33号
代表者名 代表取締役社長執行役員 和田山 朋弥
(コード番号：7804、東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役常務執行役員 清 水 明
(TEL. 06-6448-1801)

2023年10月期第1四半期決算発表 質疑応答集

当社の2023年10月期第1四半期の決算に関して、発表以降に株主、投資家などの方々からいただいたお問い合わせや感想の内容と、それに対する当社からの回答について、以下の通りお知らせいたします。なお、本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものです。決算内容の詳細については、2023年3月8日に開示しております決算短信および決算説明資料をご覧ください。

質問1：各種コスト環境が厳しい中、増収の要因と増収率に比べ増益率が高くなっている理由を教えてください。

回答：

新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあるなかで、店舗装飾・イベント・展示会等のインクジェットプリントの案件が伸びております。

一方、デジタルサイネージについては前期に大型の受注がありましたが、当期は大型の受注が第2四半期にずれ込んだため第1四半期では減収になっております。デジタルサイネージは現状では機器の卸売販売がメインであるため、インクジェットプリントと比較して原価率が高い状況にあります。

今回の第1四半期決算においては、原価率が比較的低いインクジェットプリントの売上が前年同期で増加し、原価率が比較的高いデジタルサイネージの売上は減少したため、前年同期比で増収、増収率に比して増益率上昇という結果になっております。

質問2：当期テーマで掲げている3つの成長戦略の進捗状況と当期の業績にどのような影響があるのか教えてください。

回答：

シェア拡大、機能拡大、領域拡大の3つの戦略は、それぞれ良好なスタートを切れております。この戦略のもと、機能拡大大部分において営業活動の深堀が進んでおり、第2四半期以降の業績へ貢献していけるものと考えております。

質問 3：決算説明資料の 4 ページに「年度末の販売促進活動が活発化により、2Q に向けて複数の大型案件が確定」とありますが、これは期初業績予想に織り込まれていたものでしょうか？また、どの程度の規模から大型案件と定義付けているのでしょうか。

回答：

第 2 四半期の大型案件につきましては、期初業績予想に織り込んでおります。当社の主力であるインクジェットプリントは多品種少量生産であり、受注金額は小規模であれば数千円程度のももあり、大型案件の金額基準について明確な定義付けはしていませんが、決算説明資料にある大型案件は受注金額 1 千万円以上の案件を指しております。

質問 4：以前の IR 資料にて、当期は各種施策の結果が出てくる下期に業績が伸張する計画であることが説明されていますが、現時点でこの見通しに変化はありますか。また、売上と利益、どちらがより伸張するイメージですか。

回答：

当期下期の業績につきましては、現時点で期初業績予想を修正するような事象は発生していません。当社の原価と経費の中で人件費や家賃等の固定費が占める割合が高いため、売上と利益のどちらがより伸張するかということではなく、売上が損益分岐点を超えて伸びると利益も大きく伸びる傾向にあります。

シェア拡大、機能拡大、領域拡大の 3 つの戦略を着実に実行することで売上を伸ばし、利益も伸ばしたいと考えております。

質問 5：中量、大量産印刷・オーダーグッズ制作について、収益貢献の状況を教えてください。

回答：

中量、大量産印刷とオーダーグッズ制作につきましては、ほぼ想定通りに受注を獲得できております。但し、当期は立ち上げ初年度であり実績を積み上げていく段階ですので、収益に大きく貢献するのは来期以降になるものと考えております。

以上